

CISO レベル向けガイド: 第三者との繋がりを守る

第三者を通じたリスクの特定

- 全てのベンダー関係ならびに各関係で晒されるアセットおよびデータを網羅したリストを作成して、継続的に更新する。
- 各ベンダーまたは第三者がアクセス可能なデータを審査して、各アクセスレベルが「最小権限の原則」に従っていることを確認する。
- ベンダーのシステムにデータ漏洩が発生した場合の貴組織への影響に基づき、ベンダーと第三者の関係性を順位付けする(低、中、高)。
- リスクが最も高いベンダーから始めて、各プロバイダーのサイバーセキュリティ性能および関連規格への遵守について評価する。関連規格への遵守は、ふさわしい開始点となる。定期的なセキュリティ評価計画を策定する。最もリスクが高い、および/または顧客データへのアクセス権が最も多いベンダーに関しては、時々オンサイトアセスメントを実施することが望ましい。

第三者のセキュリティの管理

- 徹底したデューデリジエンスを実施する。ベンダーとの提案、契約、事業継続性、インシデントレスポンス、そしてサービスレベル契約に関するあらゆる要求に関して、サイバーセキュリティの期待を設定する。サイバーインシデントが発生した場合の責任および義務について合意する。
 - 貴組織がデータの取引または共有を行う金融機関およびその他のエンティティのサイバーセキュリティ慣行について問い合わせる。貴組織が遵守すべきサイバーセキュリティ要件には、データの共有またはアセットの露出を行うベンダーおよびその他の組織も従う必要がある。
- サイバーセキュリティ規格に対するベンダーのコンプライアンスを監視するため、確立および合意済みの措置を取る。
- 機密データを取扱うベンダーに問い合わせ、貴組織が同ベンダーで抱えているアカウントにおいて二要素認証、暗号化、またはその他のセキュリティ対策を提供しているか確認する。
- 必ず、インストールする全ての第三者ソフトウェアおよびハードウェアにセキュリティ用のハンドシェイクが設定されていることを確認する。これで、ブートプロセスが認証コードによってセキュア化され、コードが認められない限り実行されない。
- 偽物または仕様に一致しないベンダーの製品に遭遇した場合、解決策に向けて交渉するか、出口戦略を見つける。
- 毎年、ベンダーとの契約を見直し、必ず貴組織の戦略的方向性およびデータセキュリティの規制要件を引き続き満たしていることを確認する。契約終了時には、アセットまたはデータの返却、ベンダー側で完全に消去されていることの確認、貴組織のシステムまたはサーバーへの一切のアクセスの無効化に関する規定を含める。

情報の共有

- 貴組織のベンダーおよび取引先にセキュリティの問題について連絡できる、明確な伝達経路と連絡先が存在することを確認する。
- 信頼できる、実践的なサイバーセキュリティ情報を内部および外部ステークホルダー(金融セクター内外のエンティティおよび公的機関を含む)と適宜共有する。
- 他組織が第三者との間で経験している脅威、脆弱性、インシデント、およびレスポンスに関する最新情報を追跡して、組織の防御力を高め、状況認識力を高め、学習の機会を広げる。FS-ISACなどの情報共有組織に加わることで、最新情報を取得しやすくなる。

サイバーセキュリティを念頭に置いたベンダーの選定

潜在的なベンダーに以下の質問群を尋ね、各社のサイバーレディネスおよびアウェアネス、また貴組織のリスクプロファイルに及ぼす影響について測定してください:

1. 経験値はどの程度あるだろうか? ベンダーがクライアントに提供してきたサービスの履歴を調べる。貴組織に似たクライアントにサービスを提供するにあたってどのような経験があるだろうか?
2. 既知のサイバーセキュリティ規格へのコンプライアンスを文書化しているだろうか (NISTフレームワークもしくはISO 27001、またはSOC2レポートを提供できるだろうか)?
3. サービスを履行するために貴組織のどのデータおよび/またはアセットにアクセスする必要があるだろうか? 不要と思われるアクセスを要求しているだろうか?
4. 保持した貴組織のアセットおよびデータをどのように保護する予定だろうか?
5. 自社の第三者サイバーリスクをどのように管理しているだろうか? サプライチェーンセキュリティに関する情報を提供できるだろうか?
6. 貴組織に影響を及ぼすインシデントが発生した場合、どのようなディザスタリカバリおよび事業継続性プランを抱えているだろうか?
7. 貴組織への最新情報の提供はどのような形で行われるだろうか? 自社内の動向、脅威、および変化をどのような形で連絡する予定だろうか?

